会　議　録

会議の名称	令和７年度　第２回　日向市図書館複合施設整備アドバイザリー会議
開催日時	令和７年９月２４日（水曜日）１０：００～１１：３０
開催場所	日向市役所３階３０１会議室（オンライン会議併用）
出席者	＜アドバイザー＞ ・桑野斉　国立大学法人宮崎大学　地域資源創成学部　教授 ・青山鉄兵　学校法人文教大学学園　人間科学部　准教授　※オンライン ・中川敬文　株式会社イツノマ　代表取締役 ＜事務局＞ ・総合政策課　麻田、押川、一木、野村 ・市立図書館　海野、貴田 ＜オブザーバー＞ ・アカデミック・リソース・ガイド株式会社　有尾　※オンライン
議題	１　出席者紹介 ２　これまでの経緯 （１）第１回アドバイザリー会議 （２）議会報告 （３）市民参画（日向ラボ・ラボ、語る会、アンケート） （４）先進地視察 ３　議事 （１）基本理念・ビジョン・コンセプトについて （２）子育て支援機能について ４　今後のスケジュール （１）第３回　日向ラボ・ラボ
会議資料の名称及び内容	・資料　第２回日向市図書館複合施設アドバイザリー会議説明資料
記録方法	□ 全文記録 □ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ■ 会議内容の要点記録

会　議　内　容

開会

１．出席者紹介

２．これまでの経緯

資料を基に、事務局より説明。

（桑野）遊び場スペースが広いほど多くの遊具を置くことができ、利用者のニーズに沿うかとは思う。一方、図書館とどう繋げるかという視点を持ってどの遊具を入れるのか検討いただきたい。

（中川）紙コップ遊びなどの造形遊びは必要性が高いと思われる。自然に子どもたちが形を作り出して遊ぶ、といった取組はコストが低く実現できる。加えて、ファシリテーターのような人的なサポートが非常に重要だと思う。知識や技術ではなく子どもに対してどのようなスタンスで臨むのか、自発性を引き出すために程よい距離感で子ども扱いをしないといったスタンスが重要ではないかみんなが夢中になれるコンテンツをどう作っていくのかといった視点を持ち、最小限のハード整備で進めるといった形が理想的だと思う。

（青山）図書館と学校図書館、サードプレイス、遊び場機能がセットになった時に、学びや成長にそれほどの軸足を置くのかということが重要だと思う。特に、居場所づくりという視点で考えたときに、よく言われるのは、成長のきっかけや交流のきっかけになってほしいが、大人が期待しすぎるのは良くない。一方、ファシリテーターが遊びを学びにつながるように道筋をつけていくもの、反対に子どもにほとんど指示せずに安全管理のみ行っているものもある。居場所づくり、サードプレイス、遊び、社会教育の複合の中で学びや成長をどれほどのバランスで創るか、どういうコンセプトで誰にどこまでお願いするのかといったことを議論していきたいと感じた。

３．議事

（１）基本理念・ビジョン・コンセプトについて

資料を基に、事務局より説明。

（桑野）地域づくりにおいて、市民同士のつながりは重要だと思う。一方、いわゆる関係人口や交流人口といった、定住人口ではない日向市に関心を持ってもらっている方が日向市のまちづくりや人づくりにコミットする可能性も今後出てくると思う。そのため、まちづくりのハブとして図書館が市外・県外の関係人口のつながりやネットワークとして活用されることも期待している。

（中川）民間の視点だが、ビジョンに剥離があるのではないか。ターゲットを明確にし、その人に来てもらうためにわくわくさせるようなキーワードを選び、それが設計や運営のコンセプトに反映させるといったことが重要ではないかと思う。

例えば、キッザニア東京では、教育（エデュケーション）とエンターテインメント（楽しさ）を組み合わせたエデュテイメントというコンセプトを貫いて、とにかく学ぶことを楽しくということにかなりこだわった。

今回の施設は主に市民がターゲットだと思うが、市民の人が「あそこが出来たら楽しみだとね」とわくわくできるキーワードをどうつくるのかがポイントで、抽象度が高い言葉を並べたところで実務に落ちなかったりアクションに繋がらなかったりということがある。行政がやると言葉が丸まってしまいがちだが、今回の大きなプロジェクトの中で、少なくとも県内に名を轟かせるビジョンを作るべきで、この図書館を通して日向市を全国にアピールする絶好の

機会と考えて取り組まないとお金をかける意味がなくなってしまうのではないか。
図書館の目的を、今まで来ていた人に対して古い建物を綺麗にするリフォームをするのか、今まで図書館に来ていなかった人を呼び込むためにリノベーションするのかといった発想で考えると、後者ではないかと感じる。
今、不満に感じていること、課題を解決するといった視点で考えると、日向市に不足しているもの、圧倒的に文化ではないかと思う。文化の概念も色々あるが、音楽やファッションなど、日常的な選択肢が圧倒的に少ないと感じる。インターネットでは自分が知っているものしか検索できないので、図書館という空間に来た時に初めて知り、そこでインスパイアされるようなものになってほしいと思う。
また、中高生に意見を聞いても、本人たちが経験したことがないことは何も出てこない。大体は「お菓子を食べながらおしゃべりしたい」といった意見が出てくる。それは別に図書館でなくてもできることなので、大人たちが考えて提案をしてあげなければ、子どもや市民から聞き出しても、経験していないことを出さない限り面白いものは作れないという気がする。

（青山）資料にある理念・ビジョン・コンセプトのピラミッドで言うと、コンセプトに落とし込んでいった時にどの部署がどういう役割なのかというものを計画的に落とし込んでいく必要があると感じた。
また、文科省が図書館や社会教育施設で言うのは、人づくり、つながりづくり、地域づくりといった言い方をする。資料を見ると「地域づくり」と「まちづくり」の違いなど、よく読むと分かるが似ている言葉なのでもう少しすっきりできると良いかと思う。また、理念やビジョンを落とし込んでいくときのフェーズのようなものが見えると良いと感じた。
加えて、公民館に長くかかわってきた立場からすると、公民館が「地域づくり」だけをやっているわけではなく、資料にあるどの機能も「人づくり」「地域づくり」「まちづくり」を循環させている施設ではないかと感じた。そうした時に、ある種、縦割りにしたものに拠点を貼り付けていくポンチ絵は分かりやすいが、それを言い過ぎない方がいいのではないかといった部分も気になった。

（２）子育て支援機能について

資料を基に、事務局より説明。

（桑野）子育て支援機能を新しい建物の中に入れるというのは大変かと思うが是非入れてもらいたい。ただ、こども家庭センターなども努力義務で、市町村によって作り方や運営の方法も違うが、ほとんどはただの窓口になってしまっている。子育て支援がどういうニーズがあり、今後のまちづくりのためには、20 代や 30 代、若者や女性といったことは重要なキーワードになるため地方創生に資する取組を検討しながら進めてもらいたい。図書館と複合させるためにエリアを区切って一緒にしました、ではなく、活動するとしたらどういう形で融合させていくのかといった部分を日向市オリジナルで作っていく図書館になればいいと感じた。
一方、国・県の補助金や交付金を有効に活用するために整理していかなければならない課題もあるので、ロードマップをしっかり作って取り組んでもらいたい。

（中川）説明の中で、融合とは言われるがどうしても引越しにしか聞こえない。
子ども家庭センターの価値をどう引き上げていくのかといったことが大事だと思う。そのためにはビジョンや価値観のアップデートという要素が必ず必要だと思う。
今後、40・50 年運営していく図書館を考えた時に、40 年 50 年前にＡＩがここまで発展することを想像していたか、こんなに不登校が増えているのか、と考えた時に、やはり未来は読み切れない。そうなると少なくとも今、顕著に表れているものについては最大限取り組んでおかないと、30 年 40 年経った時に時代遅れの産物になるリスクを抱えることになる。そうすると、ＡＩをどう活用していくのか、子どもの年齢も乳幼児から少し上の年代を考えて、不登校について取り組むべきだと思う。今後、学校や塾に続くサードプレイスならぬサードスクールの機能が必要だが、今だと地域のボランティアがかつかつで取り組んでいる。民間のフリースクールはもう受け皿がないので、そこに対する市の拠点となる図書館は非常に相性が良いと思う。実はこの図書館が乳幼児の段階から中高生に至るまで実は学校だった、ということもあり得るのではないかと思う。昨年度、日向市のひまわり塾を行った時にも子どもの居場所について市民の方が議論したいという内容が多かった。子どもの２割は学校に行かないとなっている時代に、その２割が普通に図書館に通っているといったような発想で考えていかないと、確実に時代遅れになると思う。
事例として、天理市では児童館を改装して不登校の子を対象にアートスクールを作る動きがあり、お昼はこども食堂、夜は飲み屋さんをすることでその利益で運営をするといったものがある。少なくとも今ある時代の課題に対して先駆けて解決をしていく気概で取り組まないと意味がないと思う。本をキーワードにして、子育て支援や不登校、やりたいことの支援をしていくような複合施設でないとただの不動産事業になってしまうと思う。
今はまだ、子育て支援の部分のつながりがまだ見えづらいが、そこを真っ先に考えていく必要があると思う。

（青山）事業手法についてはまだ決まっていないかと思うが、遊び場の有償・無償については、近年の子どもの遊びの状況や施設のコンセプトから見ると、有料化せずより開放的な場所として遊び場が提供される施設の方が望ましいのではないかという感覚がある。今後、例えばＰＦＩ等で取り組むとなった場合に事業者の収入をどこで確保していくのかといったことはあると思うが、少なくとも遊ぶことにお金がかかる施設がこの建物の中になくてもよいかと感じる。

（事務局）皆様からいただいた意見を踏まえ、再度検討していきたい。

４．今後のスケジュール

資料を基に、事務局より説明。

閉会